



# 重誓寺報

第16号 平成22年11月発行

チリ落盤事故での救出の様子  
子は世界中で人々に感動を  
与えました。

地下に閉じ込められていた  
三十三人は、六十九日もの  
間、太陽の光に照らされる  
ことなく過ごすこととな  
り、そのためサングラスを  
かけ、目を保護しながらの  
救出となりました。

人の目は、暗闇ばかりで過  
ごすと、自然とその環境に  
合わせようと、体を調整し  
てしまいます。

太陽の光は、人はもちろん  
生物にとっては無くてもな  
らないものであります。

仏様の働きをよく光であらわすことがあ  
ります。

仏を照らしているのではなく、仏様に照  
らされている私の姿を教えてください。光  
です。

親鸞聖人は「きょうぎようしんしやう教行信証」に「むげ無碍の  
こうみやう光明はむみやう無明のあん闇を破するえにち恵日なり」と  
示されています。

阿弥陀様は、すべての者に対して平等に  
その光を届けてくださっています。

それに気づかず、目をそむけていると、  
ずっと無明の闇の中で過ごさなければな  
りません。

私たちに常に届けられている阿弥陀様の  
光明、それを伝えて下さった親鸞聖人。  
半世紀に一度のだいおんきほうやう大遠忌法要に出会わせて  
頂けることは、改めて私を照らしている  
光に気づかせて頂く機会でもあります。

## 法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、五、九、十一月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

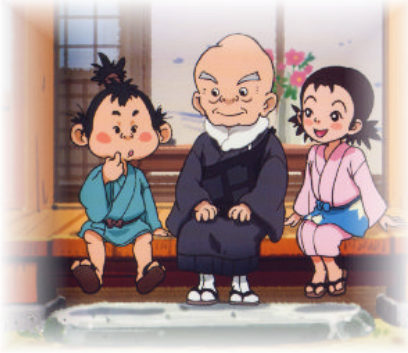
浄土真宗にとって一番大切なことが、  
仏法を聞くこと、いわゆる聴聞であります。  
椅子席もございます。  
ご家族お誘い合わせの上、お参り下さい。

### 親鸞聖人 報恩講

十一月二十日 (土)

二十一日 (日)

講師 しなすがわ 不死川 浄師



### 常例法座

十二月二十日 (月)

講師 中西 昌弘 師

一月二十日 (木)

講師 足利 孝之 師

二月二十日 (日)

講師 寺本 悦雄 師

いずれも昼二時、夜七時より

### 修正会 しゅうしょうえ (元旦会)

一月一日午前八時より

お勤め、法話、流盃 約一時間

大晦日は午後十一時より

一日午前一時まで開門致します。

是非お参り下さい。





## 榎並組団体参拝のご案内

平成24年1月16日は、宗祖親鸞聖人の750回忌にあたり、本願寺では平成23年4月より大遠忌法要がお勤めされます。

えなみそ  
榎並組（旭、城東、都島区の浄土真宗寺院）では、平成23年9月16日に団体参拝を行います。

50年に一度の大法要です。是非皆さまにはこの御勝縁にご参拝頂きたく、ご案内申し上げます。

### 募集要項

参拝日時 平成23年9月16日（金）

午前の部（音楽法要）

募集人数 1000人（榎並組全体）

参加費用 約8500円前後（懇志、バス、昼食代等）

行程 集合場所（7時半頃出発予定、後日案内）

～西本願寺（全席椅子席です）

～昼食、見学（詳細は未定）～帰阪

（すべて移動は観光バスです）

締切 11月末までに仮申し込みして下さい。

（以降はお問い合わせ下さい）

※車椅子の方（介護者同伴が必要）、手押し車が必要な方、歩行の困難な方もご参加頂けます。

※後日（23年春頃）改めて参加者に詳細をご案内いたします。

※参加費用は本申し込み時に徴収いたします。

是非、お気軽に重誓寺までお申し込み下さい。

## 京都梅小路

現在、国内最大の蒸気機関車が動態保存されている機関車館や芝生公園があります。かつてこの地には国鉄梅小路駅がありました。



今から一〇〇年前の明治四十四年には、親鸞聖人六五〇回大遠忌法要が行われ、予想を上回る一〇〇万人の門信徒が参拝されたと言われています。

当時は交通機関が発達していませんので、国鉄が唯一の移動手段でした。そんななか法要では相当の参拝者が京都駅を乗降する事が予想されたため、その

大混乱を避けようと、京都駅とは別に参拝者専用の駅が作られました。

それが「梅小路停車場」であります。

停車場は法要終了をもって解体されましたが、一九九〇年まで貨物の拠点として梅小路駅が存続しました。現在では様々な交通手段がありますので、手軽に参拝できるようになりました。半世紀に一度の大遠忌法要であります。皆さま、親鸞聖人への感謝の法要に是非ご一緒にお参りいたしましょう。

浄土真宗 本願寺派(西本願寺)重誓寺

じゅうせいじ

大阪市旭区中宮2-4-19 電話・FAX06(6951)0090

<http://juseiji.net/>